

IV-8 沖縄

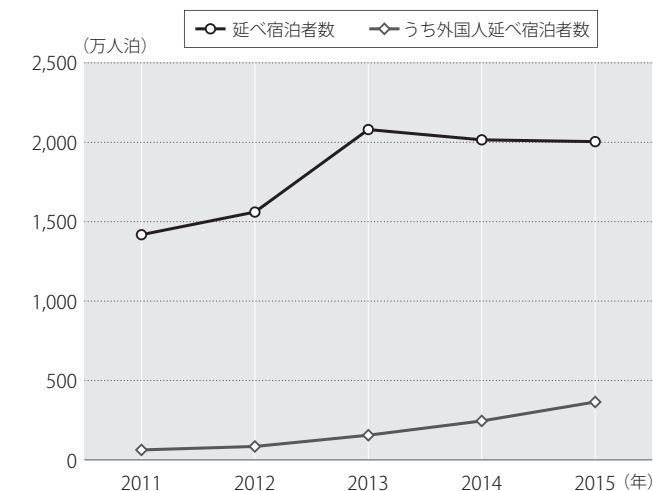
入域観光客数は776.3万人（暦年）で過去最多
外資系ホテルの新たな整備に加え、
既存ホテルのリブランド化も進む

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると15年1月～12月の沖縄の延べ宿泊者数は2,006万人泊となり、前年比0.4%減（8万人泊減）となった（図IV-8-1）。

一方、外国人延べ宿泊者数は368万人泊となり、前年比54.3%増（130万人泊増）と大幅な伸びとなった。5年前（11年）と比較すると、6倍以上の増加となっている。

図IV-8-1 延べ宿泊者数の推移（沖縄）

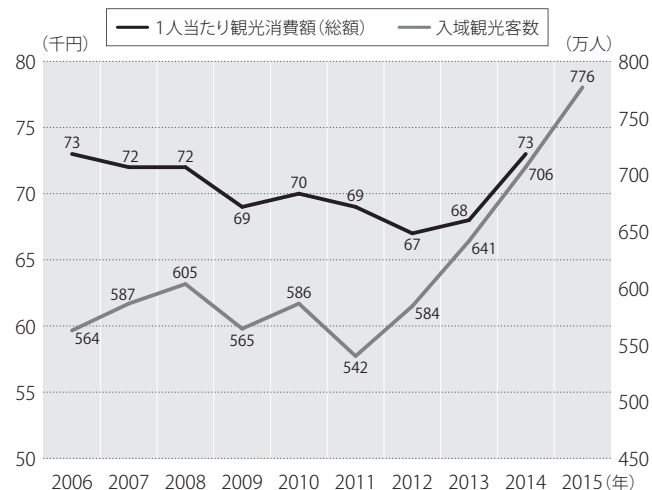


資料：観光庁「平成27年宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

沖縄県が推計している「入域観光客数（含ビジネス客）」は、15年（暦年）で776万3千人となり、前年比10.0%増（70万5千人増）と過去最多となった（図IV-8-2）。12年以降増加傾向が続いており、衰える気配は見られない。

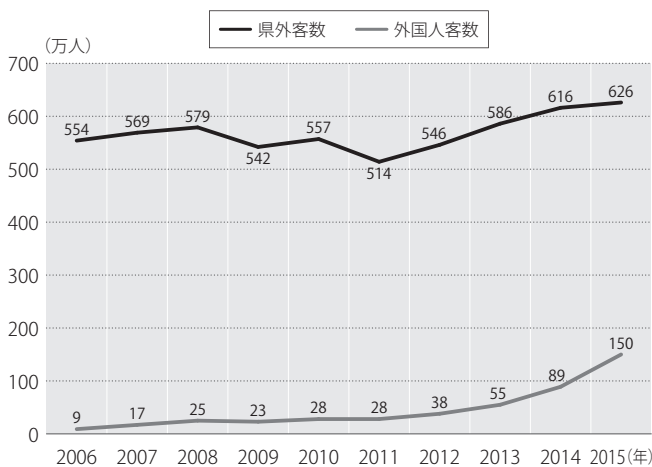
入域観光客数のうち、県外客（外国人を除く）は626万2千人（前年比1.6%増）、外国人客は150万1千人（同68.0%増）だった（図IV-8-3）。外国人客比率は拡大し続けており、15年は19.3%と2割弱を占めるまでになった。国籍別に見ると、台湾47万5千人（前年比38.0%増）、韓国29万8千人（同92.1%増）、中国29万7千人（同161.5%増）、香港19万人（同54.2%増）、その他24万2千人（同53.4%増）であり、中国が大幅に伸びた他、他の国・地域においても軒並み増加となった。

図IV-8-2 入域観光客数と1人当たり観光消費額の推移



資料：沖縄県「観光統計実態調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

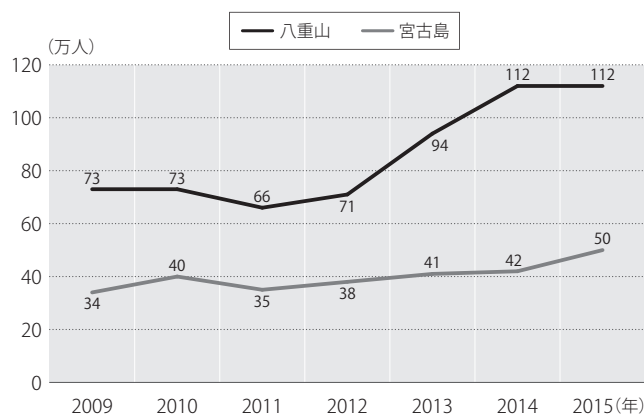
図IV-8-3 県外客数と外国人客数の推移



資料：「沖縄県入域観光客統計概況」をもとに（公財）日本交通公社作成

離島の動向を見ると、沖縄県八重山事務所が公表している八重山地域の入域観光客数は、15年（暦年）が111万5千人となり、14年に続いて100万人を突破した（図IV-8-4）。ただし、前年比は0.6%減、人数で7千人減となり、新石垣空港（愛称：南ぬ島石垣空港）の開港効果は一服したようである。一方、宮古島市が公表している宮古島の観光客数は、15年（暦年）が50万3千人となり、前年比19.3%増（8万1千人増）と大幅な伸びとなった。

図IV-8-4 八重山地域および宮古島の入域観光客数の推移



資料：沖縄県「八重山入域観光客数統計概況(推計)」および宮古島市「宮古の入域観光客数」をもとに(公財)日本交通公社作成

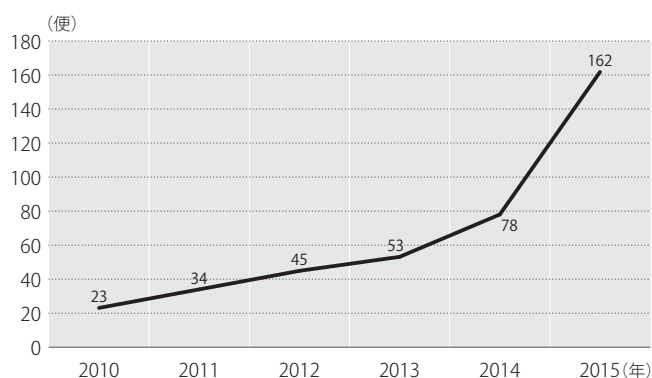
(2) 観光地の主要な動き

外国人客の増加傾向を受け、15年も国際線の増便、宿泊施設のオープン、商業施設・アミューズメント施設のオープン、インフラ関連施設の整備などが着々と進められた。

●国際線の増便

調査月が異なるため単純比較はできないものの、15年9月1日現在の那覇空港の週当たりの便数は162便で、前年(14年4月1日現在)に比べ107.7%増(84便増)となった(図IV-8-5)。主な内訳は、台北47便(提供座席数11,412席、石垣便を含む)、ソウル33便(同6,571席)、香港24便(同6,297席)、上海21便(同5,264席)、釜山10便(同1,725席)、高雄7便(同728席)などとなっている。

図IV-8-5 那覇空港および新石垣空港(南ぬ島石垣空港)における国際線(直行便)の便数(週当たり)の推移



※2014年までは4月1日時点の便数、2015年は9月1日現在の便数を掲載。
資料：沖縄県「観光要覧」をもとに(公財)日本交通公社作成

●宿泊施設の開業

15年から16年にかけてオープンした主な宿泊施設(名称変更などによるリニューアルオープンを含む)を表IV-8-1に示す。

15年7月、那覇市に「ハイアットリージェンシー那覇沖縄」がオープンした。都心にありながらリゾート気分を味わえるホテルで、外国人客に人気となっている。また、美ら海水族館から程近い今帰仁村では、20万㎡を超える敷地内に全棟オールラフ

ジュアリースイートのヴィラを有する「MAGACHABARU OKINAWA」がオープンした。さらに、16年3月には、読谷村にて「ジ・ウザテラスビーチクラブヴィラズ」がオープンするなど、富裕層を意識した高価格帯の施設が続き登場している。

16年4月以降では、サンマリーナホテルのリブランドによる「シェラトン沖縄サンマリーナリゾート」や、ホテル日航那覇グランドキャッスルのリブランドによる「ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城」がそれぞれオープンしており、海外の高級ホテルチェーンが続き進出している様子がうかがえる。

表IV-8-1 2015年から2016年にかけてオープンした主な宿泊施設

年月	宿泊施設名	場所	室数(棟数)
2015年4月	北谷ビーチサイド コンドミニウムホテル モンパ	北谷町	68
7月	ハイアットリージェンシー 那覇 沖縄	那覇市	294
7月	MAGACHABARU OKINAWA	今帰仁村	11
8月	エステネートホテル	那覇市	88
8月	星のテラスもとぶ山里	本部町	10
9月	ホテルエメラルドアイル石垣島	石垣市	39
10月	紺碧ザ・ヴィラオールスイート	宮古島市	8
12月	KARIYUSHI LCH.2nd Izumizaki 県庁前(別館)	那覇市	8
2015年計			526
2016年1月	アルモントホテル那覇・県庁前	那覇市	157
3月	ジ・ウザテラス ビーチクラブヴィラズ	読谷村	48
4月	ホテル ニラカナイ 西表島 (旧 星野リゾートリゾートナレ西表島)	竹富町	140
4月	ホテルグレイスリー那覇	那覇市	198
4月	KARIYUSHI LCH.PREMIUM	那覇市	51
4月	カフーリゾートフチャクコンド・ホテル アネックス	恩納村	84
6月	シェラトン沖縄サンマリーナリゾート (旧 サンマリーナホテル)	恩納村	200
7月	ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城 (旧 ホテル日航那覇グランドキャッスル)	那覇市	333
2016年計			1,211

資料：新聞記事やホームページなどをもとに(公財)日本交通公社作成

●商業施設・アミューズメント施設のオープン

15年から16年にかけてオープンした主な商業施設・アミューズメント施設などを表IV-8-2に示す。

15年は、景観に配慮した大型ショッピングモール「ザ・フォレストモール名護」が名護市の国道バイパス沿いにオープンした他、沖縄の素材を用いた農業や食などに関する施設が県内各地で開業するなど、地元製品の積極的な活用が見られた。

16年は、石垣島(石垣港周辺)において、複合型商業施設の開業が相次いでいる。

表IV-8-2 2015年から2016年にかけてオープンした
主な商業施設・アミューズメント施設

年月	商業施設・アミューズメント施設名	場所	概要
2015年4月	なごアグリパーク (アグリショップ しまちゅらら)	名護市	ネオパークオキナワに隣接。6次産業化を目指す農家などが加工品を開発・試作できる加工支援室、事業者の自立を目的としたインキュベート室、沖縄の島野菜を使ったレストラン、観て買って体験できる体感植物温室が備わっている。
4月	福地川海浜公園	東村	海水浴、バーベキュー、カヌー、SUPなど、海の遊びも山の遊びも楽しめる公園。
6月	石垣島馬広場	石垣市	平久保崎近く。与那国馬の散歩やエサやりなどが体験できる乗馬施設。
6月	国際通り屋台村	那覇市	那覇市国際通り・旧グランドオリオン跡。県内の食材を使った郷土料理やオリジナル料理などの屋台20施設が出店。
7月	瀬長島 ウミカジテラス	豊見城市	那覇空港近くの瀬長島にオープン。沖縄の果物・野菜、地産メニューを中心にしたグルメ・スイーツショップ、メイド・イン・沖縄のジュエリーやクラフトショップなどが揃う大型商業スペース。
10月	うちなーファーム (旧糸満市観光農園をリニューアル)	糸満市	平和祈念公園近く。動物との触れ合いや、野菜やフルーツの収穫体験が楽しめる施設。
11月	ザ・フォレスト モール名護	名護市	店舗ごとに建物が独立している大型ショッピングモール。飲食店、スポーツ専門店などが出店。名護市景観条例に基づいて道路から見える範囲に緑地を配置し、景観に配慮している。
12月	ナゴ・グロー サリー・ストア	名護市	名護市営市場の2階にオープン。市内の中小企業や小規模事業者の取扱量の少ない商品の掘り起こしや市場活性化などを目的とした特産品セレクトショップ。
2016年3月	石垣島ヴィレッジ	石垣市	石垣港離島ターミナルから徒歩2分。八重山・石垣島ならではの食材をアレンジした飲食店が併設。18店舗が出店。
4月	どきどき ヤンバルンチャー	名護市	大型四輪駆動車ハマーやバギーで、ガイド付きの自然体験、モトクロスコースの走行が楽しめる自然体験型観光施設。
4月	大宜味シークワ サーパーク	大宜味村	大宜味村で収穫したシークワサーを搾る工場見学や特産品の販売、軽食などを楽しめる。

資料：新聞記事やホームページなどをもとに（公財）日本交通公社作成

●インフラ関連施設の整備

15年から16年にかけて整備された主なインフラ施設を表IV-8-3に示す。

15年は、無料の橋としては最長（3,540m）の伊良部大橋の開通、交通ICカード「OKICA」のバス路線での運用開始、災害時対応としてのLアラートの運用開始などが実施され、観光客の利便性向上が図られた。この他、道路整備も各地で進められた。

16年には、那覇空港における両替機能の充実、中城湾港の整備などが行われた。年後半には、那覇空港のさらなる利便性向上（バイオカードの導入、国際線旅客ターミナルビルの増設など）が図られる予定となっている。

表IV-8-3 2015年から2016年にかけて整備された主なインフラ施設

年月	整備内容	場所
2015年1月	伊良部大橋開通（宮古島～伊良部島）	宮古島市
3月	那覇空港自動車道の豊見城・名嘉地IC～豊見城IC間が4車線開通（2車線増）	豊見城市
4月	沖縄本島内路線バスで、交通ICカード「OKICA」の運用を開始	県内
5月	沖縄県ならびに県内の全市町村および8機関がLアラート（災害情報などを住民に対して迅速かつ効率的に伝達するシステム）の運用を開始	県内
9月	糸満市糸満ロータリーで、環状交差点導入の社会実験を開始	糸満市
2016年1月	沖縄銀行は那覇空港LCCターミナル内に、外貨両替機27台目を設置、新たにシンガポールドルやタイバーツ、カナダドルの両替が可能に（全11通貨に対応）	那覇市
4月	中城湾港において、新港地区東ふ頭岸壁の暫定供用を開始	うるま市

資料：新聞記事やホームページなどをもとに（公財）日本交通公社作成

(3) 16年度の観光の目標

県が発表した「平成28年度ビジットおきなわ計画」によると、16年度の入域観光客数（目標値）は840万人（前年実績比5.8%増、人数ベースで46万人増）、うち外国人観光客数（同）は200万人（同19.8%増、同33万人増）の達成を掲げている。この目標が達成されると、入域観光客数は平成33年度の目標数値である1,000万人に大きく近づくこととなり、また外国人観光客数については初めて200万人台に乗せることとなる。この他の項目についても、いずれも15年度実績を上回る強気な目標設定となっている（表IV-8-4）。

（牧野博明）

表IV-8-4 16年度の数値目標

項目	対象	平成28年度 目標値	前年度 比	平成27年度 実績
入域観光客数	全体	840万人	5.8%	794万人
	うち外国人 観光客	200万人	19.8%	167万人
観光収入	全体	6,743億円	12.0%	6,022億円
	うち外国人 観光客	1,815億円	31.5%	1,380億円
観光客1人当たり 県内消費額	全体	80,000円	5.4%	75,881円
	うち外国人 観光客	91,000円	10.1%	82,625円
平均滞在日数	全体	4.00日	0.17日	3.83日
	うち空路 外国人観光客	5.50日	0.73日	4.77日
人泊数	全体	2,516万人泊	11.8%	2,250万人泊
	うち空路 外国人観光客	635万人泊	44.6%	439万人泊

資料：「平成28年度ビジットおきなわ計画」（沖縄県文化観光スポーツ部）をもとに（公財）日本交通公社作成